

令和6年12月定例会 一般質問 河杉博之議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

「安心で安全な暮らしが出来る香芝市について」

○河杉博之 議長のお許しをいただきましたので、私の一般質問をさせていただきたいと思います。

ただ、初日の割にはもう5時15分を回っての時間ですので、もう皆さんの目になるべく早く終われよというような目をされておりますので、なるべく最大限の努力はさせていただきたいと思いますが、今回通告として、本年の6月にもさせていただきました五位堂駅周辺、市内各駅の安全対策についてと、あとごみ回収についてと、大きくはそういう形でやらせていただこうかなと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いを申し上げます。

また、本日、初日の1番目に我々の公明党の中山議員が代表質問をさせていただいたんですが、その中でといいますか、公明党香芝市議団といたしましても、11月28日に三橋市長に対して予算要望を提出をさせていただきました。その中でいろんな状況がありまして、公明党として、来年度に向かいまして今の現状を踏まえた上での予算要望をさせていただきましたので、ちょっと紹介をさせていただきたいと思っております。

私ども公明党は、今後とも「小さな声を、聴く力」を発揮しつつ、現場第一主義に徹し、生命、生活、生存を最大に尊重する中道政治を進め、云々とあるんですが、政治改革を断行していただき、これは中央の話になりますが、この香芝におきましても子供最優先社会の実現、また若者や女性が活躍できる社会やジェンダー平等を目指し、少子化対策、孤独・孤立対策などの諸課題にみんなで支え合う地域社会の構築をまず香芝市でも図っていただきたい。香芝市政には、三橋市長の誕生により、「子ども真ん中」施策や人口増を目指すまちづくりが強力に進められている。子供や若者、女性の視点を重視しつつ、子供を産み育てやすい地域社会の構築、男女共同参画社会、魅力ある教育の実現、また健康長寿のまちづくり、バリアフリーや中小企業育成支援などを目指すことを望みますということで、前段で書かせていただいております。

今日も一般質問の中で、代表質問の中で、このようなことは三橋市長に皆さん議員としてぶつけられておられました。

それで、公明党といたしましての最重点要望として、4つ大きくさせていただきました。

1つは、国の総合経済対策の諸課題を踏まえ、中小企業、小規模事業者への支援策、物価高騰対策、防災・減災対策を強力に推進すること。また、先ほども申し上げておりましたが、せんだつても申し上げておりました近鉄五位堂駅西側踏切の安全を確保するため、五ヶ所五位堂線の一部区間の計画を見直すこと、福祉の複合的課題に対応できる庁内組織の構築

ということと、認知症の基本計画の策定を進めることということで、今国がやっておられることと香芝市の独自の地域性のあるものを来年度、また予算をつけていただきながら推進していただければというふうに思っておりますので、重ねてまずよろしくお願いをいたします。

その中で、繰り返しますが、本年の6月にも一般質問でさせていただきました五位堂駅西踏切を中心とした市内各地におきます各駅の周辺の安全確保をまず見直していただきたいなというふうに思っております。

6月の時点で、なかなか五位堂駅西側、下田第5号踏切という形になるんですかね、においての安全確保というのは、形的に難しい。そういうこと含めながら確認をしてくださいということで、また五ヶ所五位堂線の計画の見直しもしていただければということも申し上げをさせていただきながら、6月の一般質問は閉じたんですが、それからたかだか半年しかたっていない状況ですが、ちょっと話に聞きますと、関係所管のところでいろんな形で動いていただいたと。予算的について、急に工事が始まるという話ではなくて、どういう形でやったらいいかということで動いたというふうにも聞いております。

まず最初に、安全確保ということになりますので、まずは警察、また地元、地域との懇談、また状況確認をしていただいたりというふうにも聞いておるんで、そういう状況についての報告をまずいただければと思いますので、よろしくお願いをいたしまして、壇上からの質問とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○都市創造部長 下田第5号踏切南側交差点の改善については、令和6年10月9日に香芝警察署と協議いたしまして、道路管理者として本市が設置している道路標示等について検討いたしました。同交差点においては、踏切に隣接し、複数の動線がある現場の状況においては、現在の道路標示のほうが好ましいとの意見もありましたが、本市からは現状よりも交通安全の向上や交通の円滑化を目的としたさらなる改善をしていきたい旨を伝え、協議をしたところでございます。

以上でございます。

○河杉博之 ありがとうございます。

協議をしていただいて前向きにというか、今の答弁を聞くと、なかなかこう解決策があるようでないという状況に陥ってるっていうふうに感じるんですけども、市としてその答えをいただいた上で、標識等々の話は前向きにさせていただくにしても、実際の話、あそこの解消の一番の策っていうのは、正直なところ、現状急に変わるっていうことはないという、まず現状、認識という意味ではそういう形になるのかっていうのをいま一度お願いできますか。

○都市創造部長 議員おっしゃるように、今すぐ改善できるようなよい施策というのはないのかなというふうに考えております。都市計画道路ができないことにはなかなか改善できないのかなというふうには考えております。その中で何かしら方策を考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○河杉博之 正直なところ、そうだろうとは思いますが。あそこのところに、あそこの南側が全部市の市有地であればどういう形でできますけれども、個人的に全部お土地をお持ちの中との交差点でございますので、その旨、急に立ち退け、安全が大事やっていって立ち退けることもないですし、立ち退くのにもお金がかかるわけですから、そういう交渉でも、今変な話ですけど、ほかの都市計画道路を含め、中和幹線一つに取っても、土地を買収していくのに長い時間がかかっているのも現状としてありますので、決して急に私も安全対策ができるとは全然考えてもいませんし、6月の時点でも、その話ではある意味での理解はしてるんですが、ではそのまま放っとくのかっていうわけにもいかない。

いろんな状況を聞かせていただいている中で、6月でも申し上げてましたけれども、五位堂駅の南側の大きくは2つ、あそこにロータリーが造れないかということと、もう一つは狹隘道路の解消をこのような形でできないかということを投げかけて、1回考えてくださいということは言わせていただいたと思うんですが、そのときに来年度から以降に計画を策定してやっていくんだという話があったと思うんですが、いま一度、どういう形でそれが立ち上がるのか。内容が教えていただけるのであれば、お話をいただければと思うんですが、どうでしょうか。

○都市創造部長 現在は、五位堂駅前南側の広場の部分につきまして、基本構想を今つくっておるところでございます。今後においては、その基本構想を基に基本方針を立てていくというふうな形で事業が進み始めた状況でございます。

以上でございます。

○河杉博之 まだ基本構想をつくっていかうという段階でということなので、ただ前向きに南側の狹隘道路を含め、今の状況、現在のリアルな状況を安全確保のために解消していかうという考え方はあるということですよ。

市長のほうから今日もちょっとありましたけど、人口流入をして人口を増やしていく。どうも近隣の市町村かなという話もあると思うんですけれども、全体的にいくと香芝は大阪からの入り人も多いものですから、そういう形で来るということで、市長のほうから駅前周辺の高さ制限を緩和することによって、ディベロッパーがマンションなのか、いろんなことを含めて建てやすくなるんじゃないかという試算の下、人口流入を、その辺も考えてる。

そこは、直接はなくても駅前が安全になるということで、魅力ある駅周辺になれば人も増えていくんだろうという思いだと思うんですが、市長、今の中で、正直なところ、香芝のまず五位堂の駅を考えた場合に、南側の発展があつて、マンションというか、一軒家も含めて、狐井、鎌田、良福寺のほうで家が建ってきてる状況ではあるじゃないですか、香芝ね。そこに、どうしても大阪に通われる方が多いわけですから、駅まで送り迎えをされてる方が非常に多くいらっしゃる、高校生の送り迎えも含めてですけれども。

現状でいくと、あの狭いところで、今の若い方々っていうのは割と大きい車をというか、お乗りになられて、狹隘道路の中で送り迎えのときにご苦労されてて、駅前だけではなく

て、実は自分の家から駅に来るまでの道も狭いものですからというのがあると思うんですが、人口を増やすためには、その辺を解消していかないと、なかなかこうロコミでしか広がらない。例えば、ディベロッパーがマンションの絵だけ描いても、いざ見に来たら、なかなか用水路が口を開いてて怖いわねみたいな話になってしまうと、二の足を踏むということも含めて、市長のお考え方として、まずその辺の、今都市創造部長がおっしゃっていただいたみたいな形の南の再開発と言っているのか整備と言っているのか、非常に言葉は悩むんですが、その辺についてのお考え方をまず教えていただけませんか。

○市長 近鉄大阪線五位堂駅南側におけます交通関係のご質問でございます。

今後、本市といたしましては、議員ご指摘のように、第一次香芝市都市計画再編基本方針に基づきまして、五位堂駅の周辺、南側も含めまして周辺の建築物の高さの最高限度の規制の見直しや、特に南側におきましては、市街化調整区域の区域区分の見直し等を図ってまいります。これによりまして、人口増加に向けて、人々の集う新たな商業施設の整備、またマンション等の共同住宅や一戸建て住宅の建設を促進していく方針でございます。このことから、五位堂駅周辺におけます道路の整備、とりわけ五位堂駅南側駅前広場の整備が急務であるというふうに考えてございます。

また併せまして、議員ご指摘の下田第5号踏切の南側交差点と接続いたします市道10-36号線等の狭隘な道路の拡幅についても事業を進めていく必要があると考えてございまして、初日の私の行政報告でも申し上げましたが、現在近鉄大阪線五位堂駅南側駅前広場整備基本構想の策定を進めているところでございます。

以上でございます。

○河杉博之 市長、ありがとうございます。

おっしゃったように、初日に市長のほうからのお口から、南側の形は変えていくんだということで、やっていただくような形でのご報告もいただいたので、改めて聞かせていただいたのですが、要は、ただ今日言ってあしたじゃなくて、これも丁寧にやっていかないといけないですし、地権者がいらっしゃることですし、その計画を実行していく途中にはいろんな、現状から変わるということで弊害も出てくるということだと思うんですけれども、ただ市長のおっしゃる香芝を活性化していくための一つの内容として人口増というふうに考えるのであれば、人口増するところは、まだありがたいことにあるんですね、人口増するためのエリアという意味では。

ただ、エリアに対して、それから市内各所の駅に行くための道が、香芝はまだまだ狭いところが、今はたまたま五位堂の話をして、この間、6月の話で西側の踏切、下田第5号線の踏切の話から話はしてますけれども、現実でいくと、なかなかそこに、駅に行き着くまでの道っていうのが非常に狭隘であるということも含めて、あと二上山駅でしたっけ、この間もイベントの話をやってましたけれども、あそこも本当に、今度は道どころか、駅そのものの周辺のところが狭いということで。南大阪線もご利用されて、大阪のどこに行くかによって、うちは鉄道路線がありがたいことにあるわけですから、どこでも活用していった人口増

を目指せるところではあると思うんですが、ただ香芝の歴史を見ますと、ある意味で用意ドンで開発をしてしまって、町並みがなかなかそろってないところがあってっていうところがまだまだ残っておられる、ミニ開発も多くて。大規模開発をしたところはきれいな住宅地にはなっていて、団地と言われるところになってますけれども、そうじゃないところっていうのはまだまだ途中の、旧村の中から一軒家がぼんぼん出てるみたいな状況になってます。

ただ、そこを、家の整理はできないので、駅までのアクセス道路の整理っていうのをしていかないといけないと思うんですが、津本部長、申し訳ないですけど、さっきは五位堂駅南側の話をしましたけど、市全体としての駅へのアクセス道路の考え方っていうのは、都市創造部としてはどういう形で考えておられるのかだけ教えていただけないですかね。

○都市創造部長 各駅へのアクセスなんですけど、基本的には駅へ行くには都市計画道路を計画されております。その中で優先順位をつけた中で、今までも駅前広場の整備プラス都市計画道路という形で整備はさせていただいておりますが、議員おっしゃるとおりに、旧村の部分であればなかなか道が狭い部分もございます。そういった部分につきましては、皆様の同意を得た中で狹隘道路事業という形で一部やっているところもございます。そういった形で、道路を拡幅して駅への交通アクセスの利便性を図っているところでございます。

以上でございます。

○河杉博之 ごめんなさいね。ありがとうございます。

実質、都市創造部を中心に用水路をなんかを地元と協議をしていただいて、蓋をしていたきながら道路をなるべく広く使っていただくということで、努力してるとこの箇所も何か所もありますので、それは本当にありがたいということで、ご苦労してるんだろうなとは思っております。

ただ、市長のおっしゃるように、流入人口を増やしていくために、もちろん今日もありましたけど、空き家対策で空き家のところを新しく住んでいただくことも可能ですけれども、どうしても近隣からこちらにとか大阪からこちらになると、それなりの場所にマンションを建てたり、一軒家を建てたりするような団地形式のほうが多くなってくるんだろうなと思います。そうしますと、陸の孤島状態になってしまうと、そのときに買ったけれども、後から市に文句を言いに来るという形になってしまう。その人は、別に文句を言いたくて言いに来るんじゃないくて、実際の話、生活の中でのサイクルにストレスがたまってしまうという状況になると思いますので、全てにおいてその辺もしていただければなと思います。

もう一個、五位堂の駅の話に戻りますが、北側のロータリーもいろんな形で今検討を加えていただいているというふうにも聞いております。何年か前からずっとあそこのロータリーについては、あそこの地元の前々会長の方との協議をさせていただきながら、何回か都市創造部のほうにもこういう検討はできないかということもお話をさせていただいた経緯もあるんですが、現状あそこの今の朝夕のラッシュを含めて、北側のロータリーの改修というか、そういう形の計画、青写真を引くような予定があるのか、もう引いてるのか、それについてご報告いただけますか。

○都市創造部長 過去にも中村議長のほうからそういった駅前の改修計画についての質問もございました。そういった部分も含めまして、北側広場は一般車両と公共交通がふくそうしている状態であり、交通が成立していない状態でございます。

本市としては、令和6年6月28日に既に交通量調査を実施し、交通事業者からのヒアリングも済ませており、広場内の中央に位置する植樹を撤去して交通空間を確保し、一般車両と公共交通車両を分離するような案の検討を進めております。

今後においては、奈良県公安委員会など関係機関との協議を行っていく予定でございます。

以上でございます。

○河杉博之 ありがとうございます。分かりました。

どっちにしても、今日あしたにできる話じゃないですし、地元協議も必要ですし、北側においては今の実際送り迎えをされてる車をお持ちの方というのが香芝市民だけではないので、そういう形での近隣の町村との話も必要ですし、バスで通ってられる方についても、乗車、降車の場所の問題も出てくると思います。だから、非常に丁寧な話をしないとイケないんですけども、ただ現実的には、朝あそこに、夜、夕方あそこに行った、運転していくメンバーからは怒号しか飛ばないような状況になってるっていうのも本音ですので、あまり置いとくとあまりいい結果が出ないだろうなという結論といたしますか、状況は出ないだろうなと思いますので、今南と北の話、同時っていうのも大変なのは分かってます。

実際の話、計画を立ててもお金が全部が一気につく話でもないので大変だと思いますが、ただ三橋市長の腕の見せどころで、どういう形で国からお金を取ってくるか分かりませんが、いざ工事ができるときに、いや、今から線を引くんですよではない、本当の線は引けないでしょうけれども、ある程度の基礎はできてるような形を取っていただきたいなというふうに思うんですね。

それで、プラスアルファで上かぶせをしたいのが、6月でも申し上げた近鉄検査場の上の五ヶ所五位堂線の途中までといたしますか、五位堂駅の南にだけでもできないかということの話にはなるんですけども、その辺の計画変更というのをしたら、都市計画道路から離れてしまうから、国からの一切の補助金というのは出なくなるんですかね。それについて教えていただけないですかね。

○都市創造部長 都市計画決定については、今後どういうふうにするか、駅前広場も含めて拡大するかどうかも含めて検討していった中で、様々な交付金等、補助金等をいろいろ探した中で、補助金を使って、交付金を使って、まずは事業を進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○河杉博之 ごめん。俺の言い方が悪かったよね。

そうじゃなくて、五ヶ所五位堂線の都市計画決定をしているのは、要は丘西線につながっている話ですよ。その丘西線につながりまで行くとしたら、丘西線のあそこの拡幅工事まで

全部やっっていかなあかんとなると、夢物語も夢物語なんですよ。

今南側の、市長が替わられて、そこを一つの、重点とまでは言わないにしても、注視する場所であるということでおっしゃっておられたんで、例えばさっき申し上げた近鉄の検査場の上を飛び越すすみれ野との行き来、6月に申し上げましたけれども、行き来をするのに五位堂駅の南のロータリーというところにつなぐような形の路線変更をしてしまうと、今度は都市計画道路からちょっと離れてしまうので、その先に都市計画道路につなげますよというのが青写真はできたにしても、それについて国からの交付金、補助金というのは出なくなるのか、出にくくなるのか、いや、それでも出るんですよのかを、ごめんなさい、聞いたつもりだったんですけども。分からないなら分からないでいいですよ、別に。

○都市創造部長 都市計画道路の計画はございますので、どこかまでやるという部分では出ます。ただし、国のほうから早く全部進めてくださいという話は出てくるとは思いますけれども、まずはこの部分を重点地区地域として、100メートルであれば南側と100メートルの道路っていう部分での補助金、交付金は出ます。

以上でございます。

○河杉博之 どういう線を引くかにもよるんだろうなと思うんですね。今現状は、五位堂の南側にぽつんとでかいというか、道路ありますよね。あそこが大体青写真の、五ヶ所五位堂線の一部じゃないですか。ただ、今の南の開発を、例えば南の安全を確保するために町並みを変えていこうとした場合に、若干あそことずれるんじゃないかなという思いもあるのですね。

ただ、それについては青写真の引き方っていうか、線の引き方によってはできるんだろうなっていう、可能性の問題で全然結構なんですけど、それであれば、国の査定にはなりますからあれですけど、可能性があるのであれば、もちろん単費ではもともとできないのは分かっています。ただ、その南の再開発と検査場を越えてくるすみれ野との南北のつながりの道っていうのは、可能性としてはゼロではないと。丘西線につなげようとする都市計画道路よりも可能性は高まったと思ってもいいっていうことでいいですかね。

○都市創造部長 はい。議員おっしゃるとおりでございます。

○河杉博之 私の目の黒いうちに出来上がるかなという不安はすごくありますけれども、実際の話、今市長の馬力だといけそうな気もせんもないので、大いに期待してやっていたらというふうに思います。

ですから、そういう意味では、ごめんなさい、どうしても中心が近鉄五位堂駅のことになってしまいますけれども、繰り返しになりますが、市内各駅の駅に行くまでの狭隘道路の安全確保の再点検と五位堂駅の早急な北南のつながり、西、下田第5号踏切の安全確保、ほんで五位堂駅の南側の安全確保というのをまたしっかり計画に載せていただいて、来年度、再来年度、できれば1回来年度に目に見える形で表していただけるような形、夢物語でも進みましたよっていうぐらいのレベルではいいかと思うんですが、こういうような形で香芝は考えてますと。だから、市長のおっしゃってる流入人口の増加の中の一翼を担うんですよ

ていうことを発表できるような形だけは取っていただければと思いますので、よろしくお願ひしときます。駅周辺については、それで終わります。

中項目2の歩行者、小・中学校の児童・生徒の登下校時の安全対策についてということで、これは全体的な話というよりも、この時期だからっていうところで、あえてさせていただいたんです。

まず、歩行者の方についてなんですが、まだまだ朝夕のジョギングブーム、ブームよりは下がったのかもしれないんですけども、まだまだ走ってらっしゃる方は多くいらっしゃるんですね。ところが、夏場の時期と違いまして、夏場の時期だと朝5時からもうほぼほぼ明るくなるんですが、今6時ぐらいまで暗いと。夕方も4時半ぐらいから暗くなってきて、夏場だと7時半ぐらいまで明るいんですが、ただ歩行者といいますか、走ってられる方、歩行者の方もそうなんですが、自分の生活のルーティーンとして、その時間は変わらないんですね、暗くなるかどうかは別にして。ところが、その時期に急に、特に夕方の時間がライトをつけても見にくいときに反射をされないの、どこでどうなってるか分からない。特に、男性の方は黒っぽい服が多くて、夜非常に怖い思いをしてるんですけども、まずそういう安全対策について、香芝としてはどういうことを啓蒙していただいているのか、周知をしていただいているのか、対策を取っていただいているのか、あればまず教えていただけますか。

○危機管理監兼生活安全部長 本市では、毎月15日の香芝市交通安全デーと地域安全の日を中心に通学路や街頭におきまして、交通安全や生活安全の啓発活動を行っております。

以上でございます。

○河杉博之 啓発活動をしていただいているということで、やっていただいているのは非常にありがたいんですけども、ただ啓発活動に立ち会われたというか、見かけた方、お会いされる方はいいですけども、なかなか全体的に言うとか走ってる方、夕方走ってる方、通勤されてる方も実はそうなんですけれども、私らが怖いのは、これが子供なんかも全部そうですけど、皆さんも車を運転されるからよく分かると思うんですが、車から見える人と歩行者が車を認識するのとは全然違って、それで怖いのは、歩行者は車のライトを見て、車が私のことは分かってくれてると思う行動をされるのが一番怖いんですけども、それを全体的に周知していただく方法っていうのを秋山管理監のところでどういう形でしていただけるかということをもう一つ深掘りをお願いしたいんですが、やってられること、こうやってやったほうがいいんじゃないかということがありましたらお願いしたいんですが。

○危機管理監兼生活安全部長 夕暮れ時が特に注意が必要というところでございますけれども、私どもといたしましては、幼稚園、保育所、こども園の入所時や小学校入学時におきまして、反射材付きの手提げかばんを配布していると、入学生の方にしておるところです。また、年間を通じまして計画的な活動を行う際にも、物品の配布といたしまして、反射材のベルトや反射材のついたキーホルダーなど身につけやすい物品を香芝警察署や各安全対策協議会などと連携し、配布しておるところでございます。

以上でございます。

○河杉博之 もちろん最大限のことをやっていただいているという理解はした上でなんですよけれども、現実的にそれが効果が出てないっていうのが現状にあるという形ですよ。

ですから、ここで細かいことで、何で出えへんねやっていう話をしてもしやあないんで、要はどういう形でやったら周知して効果が出てくるのか。怖いっていうことをどういう形で分かっていたのかっていうことをご理解いただかないと、まず一般市民の方ですね。事故に遭って、双方とも痛い目に、要は車の運転をしてる方もそうですし、ジョギングもしくはウォーキング、もしくは通勤してるときに当てられても痛い目に遭いますからね。それでは遅いことになりますので、口を酸っぱくしてという形にはなると思います。

ですから、香芝市として今LINEでSNS発信もしていただいています。フェイスブックとかXとかは、こちらで見に行かないとなかなか分からないというところもあるんですが、今香芝のあれで広報的な話もしていただいていますので、どんどんどんどんしていかないと、夏場と冬場の、特に季節の変わり目のこの時期には発信をしていただいて、しつこいぐらいの話をしていただいたほうが安全だと思います。

歩行者のほうは、車のライトを見て、向こうが、車側が分かっていると思ってられるのが一番怖いということになりますので、よろしくお願いします。ですから、その辺を、今でもやってはいただいているとは思いますが、もうちょっと強固にさせていただくような形をお願いしときたいなと思います。

それと、割と夕暮れ時とかに、朝なんかでも今立哨もしていただいているようにも聞いておりますけれども、それをまた職員の方に増やせて言っても大変なことです。どういう形でできるのかっていうのも含めて、まずはその辺も公安とかも含めてご検討いただければと思います。管理監、すいません、それはそれでよろしくお願いします。

ごめんなさい。教育部のほうに聞きたいんですけども、今と同じことが、特に中学生の部活の帰りが同じ現象が起きるんですね。正直なところ、中学生に対して、まずどういう指導をしていただいているかをお教えいただけますか。

○教育部長 答えいたします。

交通事故の危険が増すと言われる薄暮時に限った交通安全指導というのは行ってはございませんけれども、通学時には必ず横断歩道を渡るということについては指導をいたしております。

また、放課後に部活動をする、先ほど指摘があった中学生につきましては、日没時間の变化に合わせて細かく最終下校時間を設定いたしまして、安全に留意して下校するよう指導をいたしているところでございます。

以上です。

○河杉博之 これもちょっと苦言になりますが、残念ながらそれが届いてないっていうのが現状ですよ。

先ほどとまるっきり一緒なんですけど、夏場のクラブの帰りはまだまだ全然明るい時間なのでいいんですが、今のこの時間というのは4中とも真っ暗になった後のそれぞれの中

学校で、中学校の近所でさえ危ないところが多い。そこに輪をかけて、道路の反対側にお友達がいらっしゃいますと、小学校の低学年かと思えるような形で、車の前をというか、その意識すらなく横断をしていくというのは現状としてあるのが、私も実体験ですし、そういう話も聞きます。

中学校においては、通学かばん等々に反射板もつけてはいただいているんですが、反射板というか、かばんのところについてるのは、背中にリュックとして背負ってしまうと、背中しか分からない。横は分からないという状況になるんですね。

そういうところで、さっきと一緒にです。当たられても当たっても痛いだけしかない状況になりますので、その辺についてどういう形かというのがあると思うんですが、先ほど秋山危機管理監からおっしゃいましたけど、反射板のベルトというか、たすきをつけろって、絶対多感な中学生がつけるとは思えませんので、教育委員会として指導だけではなくて、実質的、実態的にどうしたら安全対策ができるかっていうのをお考えいただきたいと思うんですが、何か今ございますか。

○**教育部長** 反射板の効果というようなことにつきましては、ドライバーに視認してもらいやすいように、中学生自身が実体験として講習などを受けて、子供たち自身が実感しないといけないなというふうには思っています。例えばですけれども、中学生自身が講師となって、下級生などに対して自分の身を守るための交通安全ですとか反射板の効果などを伝える教室などを開くといったようなことも、より意識を向上させるのに効果があるのではないかなというふうには考えております。

以上です。

○**河杉博之** ありがとうございます。

正直なところ、反射板をつけろ、つけろって言っても、大人でもなかなかつけないのに、思春期の中学生が、一部の子はつけていただけると思いますが、特に反射板だけではなくて、結局クラブの帰りになりますと、制服ではなくクラブのジャージ、もしくはウィンドブレーカー等々になりますので、クラブによってはウィンドブレーカーが反射板になっているようなやつもあるんですが、全体的ではないということも含めまして、何とか意識改革をすると。

今の部長からおっしゃっていただいたみたいに、小学生も、特に低学年、高学年含めてですけれども、どうしても集団下校はしていますが、ばらばらになると、そのときから家までの間で決して安全な場所ばかりではないので、そういうことの注意喚起をしていただくような教室というか、わいわいとやってればいいと思うんですが、その担当を中学生の子にさせていただけるようなことっていうのをやっていただければいいと思うんですけれども、そういうことは、教育委員会といいますか、学校間の話としては可能なんですか。可能であれば、ぜひそういう交流をやっていただいたら、4中で10校の小学校に行っていただいたら。教育長なんか、そういうの大好きな人なんですけど、できるかどうか。できる話なのかどうかっていうのを教えていただけますか。

○教育長 今議員ご指摘のことについては、我々が学校のほうに十分話をしながら、指導しながら、十分話し合いをしてやらせていけるものはやっていただきたいということは思っています。

部長言いましたように、やることも重要なことやし、まずは我々も意識持って、都度見に行きますし、学校にもしっかり見ていただくと。そんな中で、話し合いをしっかりしていきたいと思います。指導です。

○河杉博之 教育長、ごめん。何か今分かったような分からんような。何か、私今丸め込まれたみたいなイメージがすごく強いんですけど。

要は、部長もおっしゃっていただいたように、要は中学生自身が講師となっていくことによって責任感が生まれますし、それをやった子、それを班単位でやるのかクラス単位でやるかは別にしてですけど、一つは交流ができるのが一番いいなというのはあれですけど、責任感が生まれて、そうすると小学生に対して中学生の子供たちがそういうことをしたら、ああ、僕らは、私らは小学生にこういうことを言ったから気をつけなあかんっていう意識が生まれてくるというふうに思いますのでね。

そういう小学校と中学校の交流がそういう形でできるかどうかということは、確認の上じゃないと動けないと思いますし、今それはもちろん教育長がおっしゃられたように、学校同士の話ですから、校長との話っていうのもしっかりしてやらないといけないと思います。

ただ、その辺について教育委員会が仲立をしていただいた上でやっていただければ、それについては幸いかなと思いますので、よろしくお願いしておきます。

小・中学校の登下校については、それでいいんですが、もう一つ、歩行者のあれの問題で、1つだけ、すいません、津本部長に聞き忘れたことがございまして、私の地元の真美ヶ丘のかつらぎの道の道路と面してところが、この時期になりますと歩道に防犯灯といいますか、街路灯はついてるんですが、実際かつらぎの道のところに来た人たちが明るくなるような明かりがついてないんですよ。あそこは、残念ながら歩行者、自転車が最優先で、ノンストップで通られるんですね。多分、それは津本部長も目にさせていただいてると思うんですけども、それについてのあそこの対策っていうのは、していただくことは可能でしょうか、どうなんですかね。

○都市創造部長 私も先週6時頃、現地を確認しに行かさせていただきました。議員おっしゃるように、かつらぎの道から自転車等が来たらちょっと暗くて見えづらいというような状況でございました。その部分につきましては、視界を遮っている立木の伐採等は今指示させていただきます。

それと、かつらぎの道は供用開始から35年が経過して、施設の老朽化が進んでいることから、全体的な計画を立案して、再整備を必要とする時期に到来していると考えており、計画立案においては重点的な景観形成にしていくとともに、安全確保の観点から、舗装や植栽の在り方に加えて、照明についての検討なども進めていきたいというふうに考えております。したがって、計画による照明設備の更新には期間を要するというふうに考えております。

ただし、私も見に行った中で、やはり危ないというふうに感じておりますので、何かしらの方策がないかというのは検討させていただきたいなと思っております。こういったものがあるのかという部分で、じっくりと検討させていただければなと思っております。

以上でございます。

○河杉博之 ぜひお願いしたいんですけども、逆に言えば車を運転している人があそこは怖いということで、一旦停止に近いようなことをしていただいているので、横断歩道でもありますので、交通マナーといいますか、ルール的にはよくなっているんですが、現実的にあそこを通り慣れている人はそうなんですが、たまにしか通らない人は、そのまま車としてもスルーで行って、見えてない次第ではスルーで行ってしまうことはあるので、大きい事故になる前に何とか検討していただければと思います。あそこで事故が起きたら、どうしても市は何もせえへんかったんかって言われるのも悔しい話にはなりますのでね。よろしく願いしておきます。

安心で安全な暮らしができることについては、これで終わります。

「ゴミの回収について」

○河杉博之 2項目のごみ回収についてということでお願いします。

香芝市も高齢化が進んでまいりましたし、働き方改革もありまして、ごみの出し方も収集をしていただく方法もいろいろ変わってまいりました。その中で、いろんな形で今香芝市としては、基本的には戸別収集よりもステーション方式のほうが推奨されている状況ではあるんですが、今申し上げましたように、高齢化が進んだり、働き方改革で家の成人の方がその時間に合わせてなかなかごみを出しに行きにくいところも生まれているのは現実でございます。その辺についての認識は、今どのようにお考えかをまず教えていただけますか。

○市民環境部長 ステーション方式に負担があるということの認識でございますが、ご指摘のとおり、袋小路で収集車が転回できないなど、道路形状や道路幅員等の事情から、収集車の走行ルートまで出していただく必要がある場合や地域の方で話し合っただけで決められたごみ出し場所がご自宅から遠くなってしまう場合など、ごみ出し場所が戸宅から少し離れた場所まで持ってきてもらわなければならないというご家庭はございます。特に、こうした事情のご家庭が高齢者世帯等の場合、日々のごみ出しを負担に感じられるケースがあるということは認識として持っております。

以上です。

○河杉博之 いろんなケースがありまして、どうしても今部長もおっしゃっていただいたように、自分の家から遠くなるということもあります。変な話ですけど、じゃあ自分の家の前をステーションにしようかって、いや、それは困るという話になって、本音とわがまが行ったり来たりしてる状況であるのは、よく理解はしておるんですけども、本当にあり

がたいことに、私が昔申し上げたように、今実現していただいているふれあい収集について、高齢者の家庭においては、いろんなこと、この間もこの話をしてるときに、ふれあい収集の中でも、例えば足の骨を折って家におるんだけどっていう人なんかも対応できますよということで、幅広く今やっけていただいているのは、現実として理解はしてるし、いい形になるなというふうには思っておりますが、ただそこにまで行き着かないような形の方で、ステーションまで遠いっていう方、もう一つは共働き、共働きという言い方が正しいかどうかは別にして、家の成人の方、ごみを出される方がステーション方式で出すんですけど、お仕事に行かれるもんですから、収集後に当番になりますと、網を片づけたり、その清掃をしていかなくてはいけない、それが対応できないからっていう、こういうことも出てきてるっていうのがあるんですが、その辺についてどういうふうにお考えになられてるか、教えていただけますか。

○市民環境部長 2つ質問をいただきました。

まず、ふれあい収集までに至らない方への取組についてでございますが、ごみ出し場所が遠い方については、例えば両隣を含めた複数軒のごみ出し場所をご自宅前に新たに設定していただくといったような提案を積極的に行い、個々の問題解決を図っていただきたいと思います。

そして、もう一つご質問いただきました、例えば共働き等が原因で8時までにごみが出せない等のことに対して、何かの対策がないのかというご質問であったと思いますが、まずそのような悩みを持っていただいていること自体、ごみ出しへの認識が高いからであろうと考えます。ありがとうございます。

ただ、地域社会の変化に伴う大変難しい課題と認識しております。例えば、カラスよけネットの協働での管理が難しいというような話もよく聞きますが、共有ネットの横に個人ネットでごみ出ししていただくなど、何らかの解決策を模索し、提案していきたいと考えております。

以上でございます。

○河杉博之 ありがとうございます。

いろんなまだまだ課題があるということで、香芝市としても戸別収集ができればいいと思うんですが、先ほどご答弁いただいたみたいに、地域によって戸別収集の場所が取れないというような、車が入れないこともありますし、ステーション方式のところは個別のネットを持っていても、結局はそれを引き取る、要は掃除を当番であればしないといけないという状況が生まれますので、これは永遠のとまでは言いませんけれども、これから先、多くの課題を含んだ問題点になっていくんだろうなと思います。

解決策があるようでないようなところでもあるとは思いますが、地域地域の状況というのは聞いてあげて、地域の方、自治会の方、実際の収集をしていただいている今業者を含めて、うちの職員も含めてですけど、その辺についてどういう形が一番解決策になるのかっていうのは、ちょっと探っていただいて、何とか今問題、頭を抱えてらっしゃる方が数

多くいるっていう認識だけはしっかりしといていただければなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

それは、一般ごみなんですけど、資源ごみの回収についてなんですけれども、資源ごみの回収について、ペットボトルとか牛乳パックとかトレイとかになるんですが、これもある意味で一緒なんです。今度は、もっと遠いところに、資源ごみ回収ステーションになってしまいう地域がどうしても出てくると。これについても、同じような課題になってしまうんですが、それについても一般ごみと同じお答えしかできないのかどうか、まずそれお願いできますか。

○市民環境部長 資源ごみステーションの認識といたしまして、例えば箇所数が少ないであつたり、遠いというようなお声があるということは認識しております。

ご指摘のとおり、お住まいの場所により、かなり遠くまで出していかなければならないご家庭もございます。これにつきましては、公共施設に回収ボックスを設けておりますので、また市内のスーパーマーケット数店舗にも回収ステーションのご協力をいただいております。また、その他のスーパーマーケットにおいても、独自に資源ごみ回収を行っていただいておりますので、公共施設のご利用時やお買物の折に資源ごみをスーパーマーケットで捨てていただくような手法、そして市のごみステーションの両手法で回収を実施していきたいと考えております。

以上です。

○河杉博之 ごめんなさい。今部長がおっしゃっていただいたことはよく理解します。私も買物に行ったときにスーパーでペットボトルを入れたりするところがあるのはよく存じ上げておりますが、要はステーションが遠いっていうのは、結局さっきの一般ごみと同じ状況になってるということのご高齢者の方の話になるんですね。ステーションごみのときには、大阪のほうに働きに行かれて家にいないんですっていう人の話はあまり聞かないんですよ。その人たちは、どっちかといえば週末に買物に行くときに、それを持っていかれる方も、結構若い方なんかはそういう形でやられてる方も多いんで、いいと思うんですが、だから結局はステーションであろうと何であろうと、ごみの収集場所の指定のところ、どうしても戸別でない限りはそういうことが生まれるということもご理解をさせていただいた上で、またご検討していただければというふうに思います。

さっきと同じで、リクエストをしていただいて、皆真面目ですから、しっかりペットボトルもその日に出されるんですけれども、ただ場所によっては前々日ぐらいから出されることもありますので、その辺についてはまた別な意味で注意喚起をしっかりといただくようなことは、それをお願いしておきたいなと思います。

続けて、ごめんなさい、今度はリクエスト収集になるんですけど、リクエスト収集、月に1回予約をして6個までっていう形にはなってるんですが、それで大半の方は大丈夫なんです、そのときによって6個ではなかなかいかないときと、2回ぐらい続けて出させていただきたいというときがあつたりするので、その辺は臨機応変にできないのかという、そう

いうお話をいただいたことがあるんですが、それについて今現状と、そういうことで変更ができるのかどうかという話をお願いできますか。

○市民環境部長 リクエスト収集の点数を増やせないかというご質疑でございますが、まずこの回収点数を制限させていただいている理由でございますが、収集量の増加の懸念のほか、大型のたんすや食器などが搬出場所により通行の支障なども出る場合があります。それを、例えばその悩みをクリアし、かつニーズに対応しようとするれば、大型家具の点数を縛らせていただいた上で、全体の点数は8点、または10点というようなことを増やしていくということは検討したいと考えております。

以上でございます。

○河杉博之 それは、ちょっと検討いただいて、答えをしっかりと出していきたいなというふうに思うんですけども、リクエスト収集においても場所を指定されるところもあるようなので、大型家具をそこまで持っていけないからどうしようっていう相談も受けたことがあるので、その辺についてももう一つご検討いただければなというふうに思います。

そういう形になると、今度はよく言われるのが美濃園に搬入してくださいよというふうに言われるんですけども、美濃園への搬入、土日できないですね。平日で、なおかつ役所の許可証といいますか、申請書を出して、なかなか今の香芝の状況において平日に持っていける方っていうほうが、いらっしゃるんですけども、もちろん、いないとは言いませんが、できれば土日の土曜日、日曜日、どっちかでできないかなっていうお話もいただいているんですが、それについてのご検討は。これ自体は、組合関係にもなるとは思うんで、部長に聞いてもなかなか難しいと思うんですが、香芝として組合に対してはそういうお話をさせていただけるかどうか、お願いできます。

○市民環境部長 休日にまとめてごみを持ち込みたいというニーズがあることはもちろん認識してございます。まずは、美濃園の搬入受入れ体制について組合に申入れをしたいと考えます。

以上でございます。

○河杉博之 たしか現在事業系ごみって土曜日も入れてるっていうふうに聞いて、土曜日やったかな、入れてるって聞いているんで、事業系ごみはね、私の記憶違いでなければですけど。

どっちにしても、土日に出勤していただかなくてはいけない状況になりますので、香芝市としてそういうリクエストがあるんだよということで、1回、ご協議いただければというふうに思いますので、よろしくお願いします。

ごめんなさい。最後にあれなんですけど、昔、瓶のときに陶器と一緒に捨てさせていただいたんですけど、実際仕分の問題とか、いろんな人件費の問題で今外れてしまって、今言ったリクエストごみ、もしくは美濃園になってるんですが、例えば瓶のときの2か月、3か月に1回、月2回瓶があると思うんですけども、例えば4回のうち1回とか6回のうちに1回だけ陶器の収集日だよっていうふうに変えることは可能かどうか。ダイレクトに聞き

ますが、お願いします。

○市民環境部長 瀬戸物類、割れ食器の回収でございますが、まずは美濃園における回収後の分別、手作業の課題から瓶と区分させていただいたという経緯がございますが、例えばお皿1枚割れたためにリクエストの申込みをせなあかんのかと、しなくてはならないのかというような意見があるっていうのはよく分かります。先ほど、いいアイデアをおっしゃっていただきましたが、量が減少傾向にあるペットボトル、紙パック、白色トレイ、資源ごみの収集日を瀬戸物類やガラス食器などの収集日に一部置き換えるということは、今後協議検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○河杉博之 すいません。そういう意味では、収集をしていただいてる方はもちろん、搬入する美濃園、いろんな状況で、香芝市だけではできないことは重々承知した上での今回の質問なんです。

そういう意味で、ただ市民の方々に、本当にまだまだごく一部かもしれませんが、その悩みが増えていく今状況に年齢層は上がってきてる、働き方も既に変わってきてるっていうことを認識していただいた上で、その辺の備えをしとかなないと、一気に爆発してからでは遅くなりますので、その辺は検討していただいて、市民のニーズに合うような答えをしっかりと出していただければというふうに思いますので、よろしくお願いを申し上げて、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。